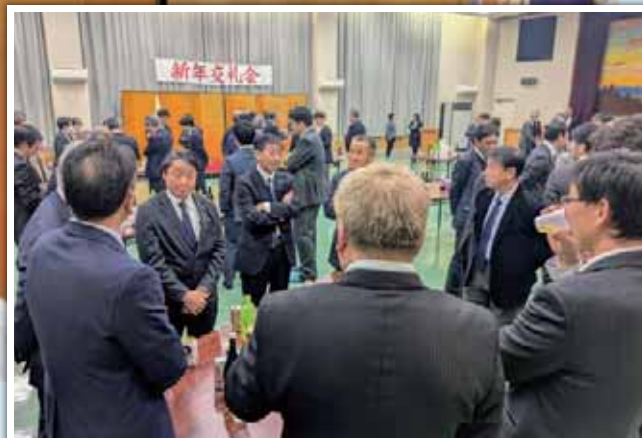


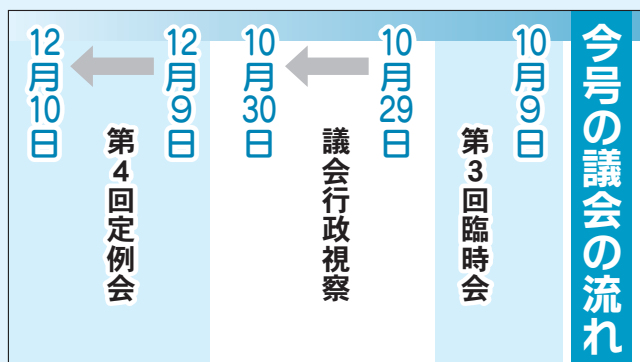
月形町 議会だより

No.
43
2026. 2. 5



新年交礼会にて、町民の皆さんとともに町の発展を願って
(1月16日)

令和7年第3回臨時会	2
令和7年第4回定例会	2
令和7年第4回定例会 一般質問	3
令和7年度議会行政視察	6
常任委員会報告	7
舞い降りて月形	8



令和7年 第3回臨時会

第3回臨時会は、10月9日に開催され、議案1件を審議し、原案どおり可決されました。

■ヒグマなどへの対応を強化

ヒグマ出没などへの対応として約75万9000円を増額。今後に備えて、鳥獣被害実施隊員による巡回監視日数の増加や捕獲対応、わな設置用車両の借り上げなどを行うためと説明。

議員「実施隊員への費用弁償が足りているのか、隊員との合意はされているのか」

住民課長「条例に基づく算定であり、隊員の理解も得ている」

■図書館施設の安全確保

図書館玄関前の補修工事として154万円を計上。

建物の老朽化によりモルタル剥離が発生したため、来館者の安全確保を最優先に、応急的な補修を行うとの説明。

議員「建物全体の老朽化や今後の施設のあり方をどうしていくのか」

町長「今回の修繕は応急対応であり、施設の今後については検討を進めている」

令和7年 第4回定例会

第4回定例会は、12月9日と10日の2日間にわたり開催されました。初日の9日には、4名の議員による6項目の一般質問が行われ、翌日の10日には、議案10件、承認1件、同意案1件、諮問1件、意見案1件、会議案1件が審議され、すべて原案どおり可決・承認・同意されました。

令和7年度

一般会計補正予算

●専決処分の承認

■ヒグマ監視システムと対策用品の充実

鳥獣保護及び害虫駆除事業に補正額272万円6000円の増額（有害鳥獣監視システム使用料、有害鳥獣対策用機械賃借料、ヒグマの忌避備品の借上料、センサーカメラ、固定カメラ緊急用電気柵、有害鳥獣忌避備品など）

質疑応答

（二部抜粋）

問 小中学校の改修計画について

は、6月のまちづくり常任委員会の調査でも多額の予算がかかるとしていた。一方で町長は、義務教育学校の建設基金も検討するとしているが、積立には数年の期間が必要と考える。今後、義務教育学校を建設するにしても人件費や工事費の高騰による基金

の実質目減り等が考えられる。町側の基本的な考えは。

（東出）

答 義務教育学校の建設について

は、今後まちづくり全体の計画を立て、青写真を描いた上で建設していく。小中学校の整備についても、その中の一つとして進める。ただ来年度以降、緊急に修繕を進めていくものとして、キュービクル、屋上防水等がある。ほかに改修するかどうかは改修計画の実施設計の中で、専門業者に委託して判断する。

（副町長）

問 観光振興事業の会計年度

任用職員の報酬はマネージャの残業代とのことだが、詳細は。

（金子）

答 振興公社に派遣している

地域プロジェクトマネージャ12名分の時間外手当で、町職員と同様に総支給額の6%を時間外手当としてみている。

（企画振興課長）

問 町営住宅整備事業のさくらコーポの外壁等工事の入札

残が大きい、この積算の根拠は。

（金子）

答 当初見込んでいた、屋上の雪庇を落とすための笠置の上に乗せるアルミの板は、非常に効果が疑わしいということ、その分を除いた執行残と合わせて減額補正になる。

（農林建設課長）

令和7年度

町立病院事業会計

問 看護師の給料が800万円

少なく、看護師の紹介料手数料も約356万円減少しているが、今回は、看護師紹介の人数は少なくなったのか。

（松田）

答 看護師の採用について

は、ハローワーク等、紹介手数料のかからない方もいれば、紹介手数料の必要な方もいる。看護師の不足の度合いによっては手数料を支払ってでも採用する時期もある。今年度は手数料が減額できる見込みである。

（病院事務長）



4人の議員からの

一般質問

町政を問いました！

松田 順一 議員

義務教育学校建設中止後の まちづくりの方向性は

一般質問

《町長》バスターミナルや拠点施設に
ついでの代替案を模索する



議員

令和7年5月に、町側からは財政的な理由により、義務教育学校の建設を断念すると説明があったが、9月の定例会の一般質問において再度検討すると述べられた。しかし、この義務教育学校の建設中止で、地域拠点施設などさまざまなまちづくりにも弊害が出てくると思うが、今後どのような方向性を考えているのか伺いたい。

町長

義務教育学校の建設については、財政的な厳しさを理由に建設計画を延期する決定をしたものであり、非常に難しい選択だった。また、建設延期に伴い、バスターミナルと拠点化施設の整備について、交通の利便性の向上や地域の拠点としての機

滝口 伸 議員

ふるさと納税を
将来投資に

どう生かすのか

《町長》財政の健全性を保ち計画的に活用、
学校整備基金も検討



一般質問

滝口議員は、①ふるさと納税基金の活用方針、②ふるさと納税基金の活用による財政の柔軟性向上、③町内産業と返礼品供給体制の強化、の3点を質問しました。基金は「貯めること」だけが目的ではなく、「活かすことで町民の利益につなげるべき」として、義務教育学校や公共施設の更新・整備など、将来世代に関わる大型事業の財源の一部と

能強化は、町民の生活にとって非常に重要であり、代替案も模索していきたい。バス路線の維持についても、特に高齢者や交通弱者の移動手段として必須であり、今後も岩見沢市との連携を強化し、安定的な運行と改善策について検討を進める。

して位置づける考えがあるかをたてました。

議員から

町の基金の状況と、
今後の活用方針は？

町長は

令和5年度末の基金残高約4億6千万円が、令和6年度末には約9億1千万円まで増加し、令和6年度は7350万円を一般会計に充当して町民サービスの向上に役立てていると説明しました。そのうえで、将来世

町長は

ふるさと特産品開発補助事業を継続し、新規事業者の参入や返礼品の高付加価値化を支援していることに加え、中小企業者等支援事業補助金や、起業家等育成支援業務で町が委託している「ツキビズキャンブ」により、町内での起業や商品開発を後押ししていると説明しました。

議員から

町内産業や担い手対策については？

代に負担を先送りしないこと、寄附者の意向をていねいに反映すること、通常財源で賄いきい事業に優先的に充当することを基本方針とし、財政の健全性を保ちながら、一定の範囲で計画的に活用していく考えを示しました。また、延期となっている義務教育学校の整備については「諦めたわけではない」とし、学校整備に係る基金創設の検討も行うと答えました。

着を図る方針が示されました。

金子 廣司 議員

学校の建設、温泉の経営、老朽化した公共施設などの課題は

《町長》 将来を見据えた体制を進めたい

一般質問



議員 町長任期も1年が経過し、残りは約3年と

なつた。義務教育学校の建設、月形温泉の経営、老朽化した図書館や公共施設、将来的には庁舎や水道施設の更新など、大きな課題が同時に控えている。現在、財政は健全だが、

良い状態にあぐらをかけば、将来すぐに行き詰まる。町長として、これらの課題にどう優先順位をつけ、町をどの方向に導こうとしているのか。

町長 義務教育学校、温泉、道の駅、図書館を含め、

多くの公共施設の老朽化など、月形町は非常に多くの課題を抱えている。残りの任期で、リーダーシップを発揮しなければならぬと強く感じている。ただし、私一人の力で全てを進められるものではない。町民一人ひとり、そし

て何より役場職員が一体とな

って町づくりを進めることが不可欠である。来年度に向けて立ち止まる段階ではなく、将来を見据えた体制づくりを進めていきたい。

議員 職員間の横の連携が十分に機能していないように見える。組織としての推進力をどう高めるのか。

町長 これまでの「まちづくり推進室」は一定の成果を上げたが、今後は将来を見通した町づくりを専門に担う体制が必要である。新年度

には、副町長のもとで若手職員を中心とした専従の「まちづくり推進室」を設置し、多岐にわたる課題を整理し、具体的な施策を各部署に落とし込んでいきたい。10年後、20年後を見据えた町づくりの中心を担う組織としたい。

議員 義務教育学校について高騰する中、現行計画のままでは実現は難しい。図書館を分離するなど、発想を転換すべきではないか。

町長 現実を踏まえた検討が必要であり、推進室を中心に多角的な視点で整理していく。実現可能な形を模索し、町民や議会ともていねいに議論を重ねたい。

議員 温泉事業は、開業当初の想定から見ると収支面で厳しさも感じる。町長の認識は。

町長 現行のやり方でも成り立たないわけではないが、より発展させるためには民間の力を活用することが重要である。新年度に向けて、運営の在り方を整理し、将来につながる形を検討したい。

議員 図書館は老朽化が著しく、安全面でも限界ではないか。

町長 現状は限界との認識を持っていく。高齢者事業団などとの機能分離も

含め、代替地の検討を進め、来年度の予算化を視野に入れた対応したい。

金子 廣司 議員

備蓄倉庫や備蓄品の対応が

甘いのでは

《町長》 調査をし、備蓄体制の在り方を検討する

議員 常任委員会で防災備蓄倉庫を視察したが、軟弱地盤に立地し、建物が傾き、

浸水の恐れもある。内部の管理も不十分で、災害時に物資を安全に搬出できるのか大きな不安を感じた。備蓄倉庫は

防災減災施設としての表示や適切な管理が求められるが、現状は認識が甘いのではないか。今後どのように対応するのか。

町長 現地を確認し、傾きや内部状況に驚いた。建設当時は防災備蓄施設として一定の基準を満たしていたこ

とも初めて把握したが、近年状況が悪化している。まずは非常食など備蓄物資を分散配置し、現状整理を進める。そ

の上で、防災・備蓄・消防に関わる施設全体について、専門的な調査を実施し、今後の備蓄体制の在り方を検討する。

議員 備蓄は「いざという時」の命綱であり、管理の甘さは許されない。老朽化を放置すれば、使えるものも使えなくなる。日常的な点検と、町民にもわかる形での備蓄体制整備を強く求める。

我妻 耕 議員

町の財政状況の現状は

《町長》健全な状態と認識している

一般質問



議員 義務教育学校の建設中止があり、月形町の財政はどのような状態にあるのか不安な声がある。財政の指標を見ても、町には一定の基金（貯金）があり、将来の借金負担についても現時点では過度な状況ではないと思えるが、町長は、現在の財政状況をどのように捉えているのか。

ような事業に取り組む考えであるのか。

町長 第5次総合振興計画に基づき、商工業や福祉分野の人材確保・定着支援、農業の営農継続支援、民間賃貸住宅整備への支援などを検討している。財政とのバランスを見ながら、優先順位を判断して進めていく。

町長 現在の月形町の財政は、健全な状態にあると認識している。今後も財政の健全性を保ちながら、町民サービスを維持していく考えである。ただし、人口減少が進む中で、国からの交付税への依存度が高く、将来的には厳しくなる可能性がある。そのため、慎重な財政運営が必要であると考えている。

議員 健全な財政状況を踏まえ、次年度以降はどのような事業に取り組む考えであるのか。

事業の優先順位の高いものはどれか。また今後、財政運営で最も課題になる点は何か。

町長 全て優先順位が高い。人口減少に伴う歳入の減少が大きな課題である。借金についても計画的に管理し、財政再建が必要な状況に陥らないよう、慎重に舵取りをしていく。

町の財政は、将来への課題はあるものの、現時点では健全な状態にあると認識した。だからこそ、優先順位を明確にして、基金やふるさと納税

などを活かし、必要な分野にはしっかりと投資することが重要である。

我妻 耕 議員

月形高校の入学確保の取り組みは

《教育長》2回目の学校訪問などで新たな手応え
《町長》高校存続の見通しが立ち次第、検討

議員 月形高校の入学者20名以上の確保に向け、10月の「月形高校地域説明会」以降、どのような取り組みを行ったのか。

教育長 10月下旬から11月上旬にかけて、岩見沢市や当別町などの中学校13校と、岩見沢市の登校支援室を訪問し、月形高校の校長とともに生徒募集活動を行った。7月にも1回目の学校訪問を実施しており、月形高校の手厚い支援や、不登校だった生徒が元気に通学している事例などを伝え、魅力アピールした。学校説明会後の訪問では、新たに受験を検討する生徒や保護者も現れた。道外からの地域みらい留学を検討する生徒

と保護者の学校説明会への参加もあった。

町長 来年の出願締め切り時期を見計らって取り組みをむつもりである。

議員 学校訪問をはじめ、取り組みによる現在の手応えと課題をどう見ているのか。

教育長 私学助成の影響など厳しい状況はあるが、各中学校からは「月形高校に行けば成長できる」という評価をいただき、例年以上の手応えを感じている。しかし、最後まで予断を許さない状況であり、引き続き全力で取り組んでいく。

議員 地域みらい留學生のための寮の整備や公設塾

について、町の考えは。

町長 町はこれまで、通学費補助や進学支援、地域みらい留学への参加など支援を拡充してきた。寮の整備や公設塾については、次年度に20名以上の入学者が確保され、高校存続の見通しが立った場合、新年度の早い段階で前向きに検討したい。

議員 在校生のために、先行して公設塾を進める考えはあるのか。

町長 寮や公設塾はいずれも多額の費用がかかるため、高校の今後が明確になるまでは、内部で慎重に検討を進めたいと考えている。

月形高校の存続には、入学確保と同時に、魅力づくりのスピードも重要だと考えている。特に地域みらい留學生の寮や公設塾は、在校生や将来の入学希望者にとって大きな力、高校の大きな魅力にもなる。今後も町・教育委員会・学校が連携し、早い段階から準備を進めることが必要である。

令和7年度 議会行政視察

今年度の行政視察は、地方自治体における先進的な取り組みを把握するとともに、それらを本町の政策立案や施策推進にどのように活かすことができるかを検討することを目的として実施し、福島県磐梯町および宮城県七ヶ宿町の2自治体を訪問しました。いずれの自治体も人口規模が小さく、財政や人材に制約がある中で、地域課題の解決と持続可能な地域社会の構築に向けた独自の工夫を重ねており、たいへん示唆に富む内容でした。

◆AIの活用で

ドアツードアのオンデマンド交通

福島県磐梯町 (10月29日)

福島県磐梯町は、会津盆地北東部に位置する人口約3100人の町で、農業・製造業・観光業がバランスよく展開されています。自然資源を活かした観光振興にも力を入れており、町全体として一定の活力を維持している一方で、高齢化の進行や交通弱者の増加といった課題も抱えています。これまで町内交通として生活福祉バスや地域タクシーが運行されてきましたが、乗降所が22か所に限定されていたことや事前登録

制であったことから、住民の利便性には課題が残されていました。特に高齢者からは「自由に移動しにくい」「気軽に利用しづらい」といった声が多く寄せられており、新型コロナウイルス感染症の拡大以降は、利用者の減少や収益が悪化してきました。

こうした背景を受け、磐梯町では令和5年10月にAI技術を活用したオンデマンド交通システムを導入しました。このシステムは、スマートフォンアプリまたは電話によつて予約を受け付け、AI

が利用者の位置や目的地をもとに最適な運行ルートを自動算出するもので、従来の固定ルート型交通とは異なり、ドアツードア（戸口から戸口）での柔軟な移動を可能としています。複数の利用者を効率的に乗り合わせる仕組みとすることで、利便性と運行効率の両立が図られています。

運行時間は午前8時から午後5時までで、年末年始を除き原則年中無休となっています。予約は利用日の2週間前から当日まで受け付けており、電話予約については出発30分前まで対応可能とされています。運賃は町内をAゾー



◆地域おこし協力隊と

第3セクターの活用で

宮城県七ヶ宿町 (10月30日)

次に訪問した宮城県七ヶ宿町は、宮城県南西部に位置する人口約1200人の町で、福島県および山形県と接する県境地域にあります。豊かな自然環境を背景に、農業・林業を基幹産業としながら、七ヶ宿ダムなどの観光資源を活用した地域づくりが進められています。同町では、人口減少と担

いった新たな利用も見られ、生活全般を支える交通手段として定着しつつあります。

一方で、燃料費や人件費の高騰、AIシステムの維持管理費用などにより運行コストは増大しており、収支率は低水準にとどまっています。町では、利用者数のさらなる拡大や観光分野との連携、既存の福祉バスとの役割分担を含め、将来的な運営の在り方について検討を進めています。

次に訪問した宮城県七ヶ宿町は、宮城県南西部に位置する人口約1200人の町で、福島県および山形県と接する県境地域にあります。豊かな自然環境を背景に、農業・林業を基幹産業としながら、七ヶ宿ダムなどの観光資源を活用した地域づくりが進められています。同町では、人口減少と担



す。隊員の活動内容は、林業支援や農業、工芸、観光施設の運営など多岐にわたり、地域課題への対応と新たな産業創出の両面で重要な役割を果たしています。

また、七ヶ宿町では商業機能の衰退という課題に対応するため、町出資による第3セクターを設立し、生活・交流・観光・防災の機能を一体的に担う拠点整備を進めてきました。中心施設は地域住民の生活を支える拠点として機能しており、季節変動を踏まえた人員配置によって通年雇用の確保にもつながっています。さらに、20年間の居住で土地

と建物が無償譲渡される住宅制度やお試し住宅、移住相談拠点の整備など、移住希望者が段階的に地域と関わることでできる仕組みも整えられています。

今回の行政視察を通じて、磐梯町におけるAIを活用した交通施策と、七ヶ宿町における人材と組織を軸とした地域づくりは、限られた資源の中においても工夫しだいで地域課題の解決が可能であることを示していました。本町においても、制度や仕組みをそのまま導入するのではなく、地域の実情や住民ニーズをいねいに把握した上で、段階的かつ持続可能な施策として展開していくことが重要であると感じました。今後も引き続き、他自治体の先進事例を積極的に学び、町の将来に資する政策形成に取り組んでいきたいと考えています。

報告 まちづくり常任委員会 所管事務調査

令和7年10月14日

■ 保健福祉課

花の里こども園 安定運営の指定管理料とは

【概要】

- 指定管理者：雪の聖母園(令和10年度末まで)
- 人口減少の影響により、今後は利用児童数の減少が見込まれる

【児童数の状況】

区 分	現在の児童数	定 員
3・4・5歳児	40人	50人
0・1・2歳児	24人	30人
合 計	64人	80人

【取り組み】

- 移住定住事業の一環としての「保育園留学」を令和5年度から受入れ
- 子どもたちの交流による変化が期待されている

【課題】

- 人口減少による利用児童数の減少で指定管理料の不安定化
- 発達支援を要する児童の増加による保育士配置の調整
- 施設の経年劣化による修繕などの増加

■ 企画振興課

路線バス「岩見沢月形線」の新体制
目標乗車数は2万9千人

【運行内容】

- 運行便数：平日6往復、土日祝日3往復
- 一部便で中型バスを使用(通学生対応)
- 運賃：月形～岩見沢 800円

【運営状況】

- 町と岩見沢市の負担割合：月形町55.2%、岩見沢市44.8%
- 令和10年度の目標乗車数：2万9,000人
- 令和7年度4～9月の乗車数：1万3,389人

令和7年11月6日

■ 総務課

災害に備えた防災備蓄 防災備蓄倉庫に懸念

【備蓄品保管場所】

- 防災備蓄倉庫(消防署横)
- 旧札比内小学校
- 総合体育館

【主な備蓄品】

- 保存水、非常食、粉ミルク
- おむつ(子ども用・大人用)、生理用品
- 石油ストーブ など

【課題】

- 防災備蓄倉庫の建物の傾きや地盤に問題
- 水害時の備蓄品搬出に不安があり、早急な対策が必要

■ 総務課

IP告知廃止後の情報伝達 町公式LINEを中心に

【主な伝達手段】

- 町公式LINE ●町ホームページ ●広報誌

【今後の課題】

- 町公式LINEの登録者数増加
- 内容のさらなる充実

■ 企画振興課

道の駅の運営状況(8/20の追加調査)

冬期間の集客が課題

【収支状況】

- 令和7年度は、現在のところ黒字で推移

【新たな町民サービス】

- レストラン：商品券対応メニュー、冬季限定メニュー
- 温泉：学割、みかづき商品券利用サービス など

【今後に向けて】

- 新規顧客の開拓
- リピーター確保による経営の安定化

第10回

舞い降りて月形
住んで、見て、
感じた月形は！やなぎだて まい
柳館 舞さん
つきがた友朋の丘

今回は、知的障がいのある方々へのサポートをする入所施設「つきがた友朋の丘」で、生活支援員として仕事をされている柳館 舞さんです。

Q 月形町に来られるまでのことを教えてください。

A 札幌市生まれで、専門学校を卒業するまで札幌を離れたことはありません。中学校時代はバドミントンをやっていました。専門学校では保育を学びました。

Q どのような経緯で月形町へ専門学校のときに施設実習があつて、そのときたまたま「札幌会」の通所施設で実習しました。保育ではなかったのですが

A 実母が浦臼町の出身で、小さいころに皆楽公園に遊びに来たことがあります。

Q 月形町の印象はどうでしたか。

A 月形町に来たことがありま

た。住んだ当初の印象は「お店が少ないなあ」、札幌と比べると当然ですよ

A 赴任当初は免許もなく、JRなどでの移動でしたが、札幌からも近く、免許取得後は車で遊びに出かけています。

Q 好きなことはなんですか。

A 友達と会ったり、カラオケにいくこと、プラバンを使った小物づくりですね。

Q 施設ではどんな仕事をされていますか。

A 食事や身の回りの介助から、歩行訓練などのリハビリ、自立に向けての課題に沿った訓練など、利用者の方々のサポートをしています。

Q 今、月形に住んで感じら

れていることは。

A 皆楽公園での花火は、身近で見ることができて感動です。仲間と一緒に、一人でも見に行きます。キャンプ場も有名だし、道の駅もできましたよね。もっと月形らしさを出せたら素敵だと感じます。

イベントには出かけますが、友朋祭など町民の方々に施設に来ていただく機会が減ってしまったのが残念です。それに最近夏が異常に暑いので、自分の部屋にもクーラーが欲しいです。

Q 議会について何かあれば。



「インタビューを終えて」

明るい笑顔で、分かりやすく取材に応じてくださいました柳館さん。保育分野から障がいのある方々の施設へと進まれ、舞い降りた月形でこれまで多くの経験を積まれてきたことが伝わってきました。これからも利用者の皆さんを支える存在としての活躍を期待しています。

広報特別委員会

委員長 松田 順一
副委員長 我妻 耕二
委員 若井 昭二
委員 滝口 伸

実際に見ること、実際に聞くことは、私たち議員にとって大切なことです。今すぐ役に立つことや将来の役に立つことのために、「視察」は実際に訪れたことが大きな意味を持つと信じています。

(我妻)

〒061-0592 北海道樺戸郡月形町1219番地
TEL (0126) 53-2321 FAX (0126) 53-4373
E-mail : gikai@town.tsukigata.hokkaido.jp